



しかはま自然観察会

のらえもん

2020 年度

No. 4

2020. 6. 20

『 人も 自然も みんな友だち 』

第4回活動 化石探し 2回目

コロナ禍のため、中止

○ 昨年の、初めての化石探しは、思いのほか好評だった。

「あつた！」と叫び声が伝わると、熱気が全体を包んできた。ハンマーでたたき、「出たー！」と叫ぶ様子は、まるで「宝探し」のようだった。

そのような場면을、今年も再現したかったのだが・・・。

化石との初対面は、アンモナイトの化石だ。中学校の中央玄関奥に、飾ってあった。先生方の話では、天塩川上流へ行き、熊におびえながら探してきたという。カタツムリのように、きれいに渦を巻いていた。

ずっと後になってから、「化石はその時代の自然界の様子を現している」ということを知って、興味を持った。が、化石を何度見てもわからないことがある。当時のものが同じような形の「石に変わる」ということだ。どうして、細かい部分まで石に変わるのだろうか？分からないけど、なんとなくロマンがあるから、好きだ。

我が家には、こぶし大ほどのフズリナの化石がある。断面は、丸くなっているものがたくさんつまっている。1個ずつ取り出すと、釣りに使う「おもり」のようだ。こんなものが、2億5千年前の古生代の海で生きていたという。

もう一つは、篆刻の講師の下村様からいただいた「サメの歯」の化石だ。650万年前らしい。歯に年輪のようなものがついていて、1帯が1年だという。

下村様は、化石愛好家だ。毎年仲間と、鋸南の鋸山付近でフィールドワークするという。

○ 2回目の、化石探しの準備

・・・新緑の5月中旬、塩原へ行く。竜王峡を散策し、モリアオガエルの卵塊を見る。次の日、木の葉化石園で化石を買い、上三衣駅近くの水生植物園でヒマヤラの青いケシを見る・・・。

こんな予定を立てていた。

去年は、芽吹きの中旬だった。快晴の中を電車は走る。バスに乗る頃、雪が降り出した。それも、吹雪だった。翌日、化石を購入し、バスに乗り駅に向かった。雪になってきた。だから、今年も新緑の5月を予定していたのだが・・・。



化石を探す道具



フズリナの化石
丸く見えるところがフズリナの断面
黒い粒がフズリナ1個